

製品名: PP1 α / β ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21115**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:38kD;Observed MW:38kD

抗原情報

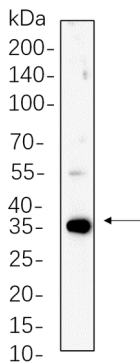
遺伝子名	PPP1CA
別名	PPP1CA;PPP1A;Serine/threonine-protein phosphatase PP1-alpha catalytic subunit;PP-1A;PPP1CB;Serine/threonine-protein phosphatase PP1-beta catalytic subunit;PP-1B;PPP1CD;
遺伝子 ID	5500;5499
SwissProt ID	P62136;P62140
免疫原	-

背景

細胞局在: 細胞質、核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) の3つの触媒サブユニットの1つです。PP1はセリン/スレオニン特異的なタンパク質ホスファターゼであり、細胞分裂、グリコーゲン代謝、筋収縮、タンパク質合成、HIV-1ウイルス転写など、様々な細胞プロセスの調節に関与することが知られています。心不全の末期にはPP1活性の上昇が観察されています。ヒトとマウスの両方の研究では、PP1が心機能の重要な調節因子であることが示唆されています。マウスの研究では、PP1が学習と記憶の抑制因子として機能することも示唆されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする3つの選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

画像データ



ラット脳全細胞ライセートを10% SDS-PAGEで分離し、メンブレンをPP1 α/β ウサギモノクローナル抗体(1:1000)でプロットングした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H + L)抗体を用いた。